

11章 城南校区



11章 城南校区

1. 櫛田神社

【所在地】城南区荒江1丁目13・13

① 櫛田神社

【概要】祭神として、天照大神^{あまてらすおおみかみ}、大若子命^{おおわかこのみこと}、天児屋根命^{あまのこやねのみこと}を祀る。境内の説明板*1によると、元禄年間（1688・1704）に祀官池田刑部^{ぎょうぶ}により、早良区野芥の櫛田神社の分霊を迎えて祭祀したという。

【境内祠堂等】②幸神社、③五穀神、④注連掛石のほか、鳥居、狛犬一対など多くの石造物がある。

【碑文等】

*1 説明板

荒江櫛田神社

一、天照大神^{あまてらすおおみかみ}、大若子命^{おおわかこのみこと}、天児屋根命^{あまのこやねのみこと}

一、由来 元禄年間（一六八八～一七〇四）当時は東山天皇、五代將軍綱吉の時代に祀管池部により、早良郡野芥櫛田神社の分霊を、当地に迎えて祭祀され、明治五年（一八七二）村社に指定、昭和二六年（1951）宗教法人櫛田神社となりました。

一、境内神社

幸神社は、家庭円満、夫婦和合、子孫繁栄の神様で、昔、荒江幸の前にありましたが、大正四年当境内に併祀されました。

五穀神は、五穀即ち、米、麦、粟、黍、豆などで五穀神はその穀物の神様です。

一、祭典

五穀豊穰、無病息災、家内安全、商売繁盛、交通安全、お家繁盛、学業成就を祈願して、左記の行事を執り行います。

（主な行事内容）

元日より3日間 初詣行事（御神酒並びに福笹の授与）

5月中旬 初籠り祭り^{こもり}

7月中旬 御願立て、子ども御獅子廻し^{ごがんと}

9月中旬 御願成就、子ども御獅子廻し^{おがんじょうじゅ}

10月中旬 おくんち、お注連縄奉納

12月中旬 幸神社祭^{さち}



櫛田神社社殿。写真向かって左に②幸神社、右に③五穀神（2013.2.11撮影）

② 幸神社

【概要】櫛田神社の境内社として祀られている。櫛田神社社殿の北隣に位置する。説明板(*1、①櫛田神社参照)によると、「幸神社は、家庭円満、夫婦和合、子孫繁栄の神様で、昔、荒江幸の前にありましたが、大正四年境内に併祀されました」とある。



幸神社（2013.2.11撮影）

③ 五穀神

【概要】櫛田神社の境内に祀られている。櫛田神社の南隣りに位置する。境内の案内板には、五穀（米、麦、粟、黍、豆）の神を祀るとある。

【銘文】

〔表〕五穀神

〔裏〕天保十年己亥 八月再建
福岡唐人町
石工 岸田徴平刻



五穀神 (2013.2.11 撮影)

④ 注連掛石

【概要】櫛田神社の境内には、2本の保存樹の大楠(1本目が幹回り5.4m/城15、2本目が幹回り3.2m/城16)があり、このうち1本目(城15)の根元付近に2つの注連掛石が祀られている。



大楠(写真右)と注連掛石(左右)(2013.2.11 撮影)

2. 「荒江会館竣工記念」碑

【所在地】荒江1丁目32-7(荒江会館入口付近)

【概要】文字から、隣の荒江会館が竣工されたときに立てられたようである。なお、荒江会館は、1.櫛田神社の道路を挟んだ向かい側に位置する。

【碑文等】

〔表〕荒江会館竣工記念

〔右横〕荒江一丁目水利組合 平成十年十二月吉日



「荒江会館竣工記念」碑。後方は荒江会館(2013.2.11 撮影)

3. 庚申塔

【所在地】城南区荒江1丁目12-17 有吉氏宅前

【概要】上部に日月の印しがある。『福岡市の庚申塔』によると、年代は明和二年(1765)。石質は花崗岩、法量124.0×85.0。

【銘文】〔表〕庚申、〔表右〕明和二乙酉年、〔表左〕七月廿一日、〔裏面〕施主/治作/□□/□□/孫三/善吉カ/孫市/作□/□□/□□/□□/九□(福岡市教育委員会編1993:50)

【参考文献】福岡市教育委員会編1993『福岡市の庚申塔』福岡市教育委員会(p.50、p.111、該当NO.204 城・15)



庚申塔。荒江1丁目(2013.2.11 撮影)

4. 太閤道(逢坂付近)

【概要】豊臣秀吉が肥前名護屋への行き帰りに通ったと伝えられる道。城南区内では、区の北部を東西に走っている。

【参考文献】

七隈郷土史研究会編1986『七隈郷土誌』七隈郷土史研究会



太閤道。七隈1丁目「逢坂」付近
(2013.2.11 撮影)

5. 忘帰台

【所在地】城南区七隈1丁目 11-48 (個人宅敷地内)

【概要】黒田藩主が狩りの帰りに立ち寄ったと伝えられる場所に建つ石碑。以下、『七隈郷土誌』からの抜粋。

「獵の行き帰りに殿様が立寄られた所が逢坂(城南中学西側の丘)の「忘帰台」と言われる。旧末永邸一帯(七隈一丁目)の丘で、丘の西側小高い所にお茶屋があったらしく、その場所に達筆で書かれた忘帰台の石碑が立っている。今は雑木の林に囲まれて昼なお暗しという感じである。

この碑が建てられた時代やこれを書いた人は判然としないが、忘帰台と命名したのは藩主ではあるまいか。

藩主はこの茶屋で娘からの茶の接待を受けた、という話が言い伝えられている。三百年前は、この高台から広々とした「草香江鴻」がひろがり、その向こうに福岡城が見渡され絵巻物のようであったにちがいない。忘帰のことは通り、眺望にうっとりして、帰城を忘れたほどでその名がつけられたのだろう。なお、一帯は昭和六十一年度から福岡市緑地保全地区に指定されている」(七隈郷土史研究会編 1986: 130-131)

【銘文】[表] 忘帰臺

【参考文献】七隈郷土史研究会編 1986『七隈郷土誌』七隈郷土史研究会



忘帰台。(2012.10.23 撮影)

6. 「福岡市水道局水道管埋設」標柱

【所在地】城南区七隈1丁目 6-19「側道橋」の西側

【銘文】

[表] 福岡市水道局埋設管

[右側面] 昭和四十五年度

[左側面] 口径六〇〇耗

[裏] 福岡市水道局埋設管



「福岡市水道局水道管埋設」標柱。橋の後方は城南高校(2013.2.11 撮影)

7. 将軍地蔵

【所在地】城南区茶山6丁目 1-8 (弓の馬場・茶山会館敷地内)

① 将軍地蔵

【概要】弓の馬場・茶山会館の建物の前にある。以下、将軍地蔵の縁起について『別府郷土史研究』第1集より抜粋する。

「田坂競氏(別府六丁目)のお話によると、「茶山六丁目井上勝氏屋敷がまだ畑であった頃、私は青年時代に父と畑仕事に行った時、父が『お前の曾祖父から聞いた話であるが、このあたりに夜になると人声がして怪しいので、千眼寺(西新町)の僧にお頼みして祈祷してもらったところ、迷っているの世に出たい、祀ってほしいとのお告げがあった。掘ってみると、形が地蔵らしい石が出てきたので、それを祀ったのが将軍地蔵である』

と話してくれた」とのことである」(福岡市別府公民館 1980 : 21)。

【境内祠堂等】②お社日さま、③久保武雄氏の歌碑、④百度石、⑤手洗石、⑥弓の馬場茶山会館竣工記念

【参考文献】

福岡市別府公民館 1980『別府郷土史研究』第1集 福岡市別府公民館 p.21-28

福岡市別府公民館 2004『別府公民館 40周年記念誌—別府のあゆみ』福岡市別府公民館 p.8-11



中央将軍地蔵。写真左後方に②お社日さま、さらに左側に③久保武雄氏の歌碑。右下隅に④手洗石がある。(2013.2.11 撮影)

②お社日さま (作神さま)

【概要】将軍地蔵のお堂の西隣りに祀られている。下記に『別府郷土史研究』から該当箇所を引用する(※下記に「堂宇の東」と表記されているが、将軍地蔵堂の建て替えとともに現在は堂の西側に移されている)

「境内に天照皇大神が祀られているが、之は近くの町内、福永氏の小松の山から移転したもの由、堂宇の東にありしめ飾りをしてあり文字不明瞭なるも碑の中央の天照皇大神、左一少彦名神、右一大日貴命の文字見ゆ。この碑はお社日さま、作神さまと称して、昔より農家により豊作のお祈りをして祀りながら今日に至っている」(福岡市別府公民館 1980 : 22)。

【銘文】

[表中央] 天照皇大神
[表右上] 倉稻魂命
[表右下] 少彦名命
[表左上] 大日貴命
[表左下] 埴安命



お社日さま (2013.2.11 撮影)

③久保武雄氏の歌碑

【概要】将軍地蔵のお堂の西にある。碑の裏側に建立者の来歴が記されている。

【銘文】

[表]

幼より老に及びし 此の日まで
地蔵の御守護 感無量なり
平成元年九月十四日
合掌 久保武雄満八十歳

[裏]

- 一、昭和十五年五月天覧御前試合福岡県柔道選手として準決勝に進出
- 一、昭和二十四年全国警察官柔道大会に福岡県選手として出場団体優勝
- 一、勲七等瑞宝章授与



久保武雄氏の歌碑 (2013.2.11 撮影)

④百度石

【概要】弓の馬場・茶山会館の入口付近にある。

【銘文】[表] 百度石、[裏] 奉納 昭和□年九月
久保武雄 ハルエ



百度石(写真左方向に將軍地蔵、2013.2.11 撮影)

⑤手洗石

【概要】將軍地蔵の手前付近にある。①將軍地蔵の写真を参照。

【銘文】〔裏〕明治七戌 二月

⑥「弓の馬場茶山会館竣工記念」碑

【概要】弓の馬場茶山会館敷地への入口付近にある。銘文から同会館が竣工された平成十七年(2005)に建てられたことがわかる。

【銘文】

〔表〕弓の馬場茶山会館竣工記念

〔裏〕弓の馬場水利組合 氏子 関係町内会
平成十七年一月吉日建之



「弓の馬場茶山会館竣工記念」碑(2013.2.11 撮影)

ふ どうみょうお 8.不動明王と地蔵の堂

【所在地】城南区茶山4丁目1 深澤氏宅内

【概要】城南学園通りの歩道に面して木製の堂が建てられ、石造の不動明王と地蔵一体が祀られている。もともと歩道に面していたのではなく敷地の中に祀っていたが、20年以上前(1990年代はじめより前)、道路拡張工事にかかったのを機会に歩道に向けてお祀りするようになったという(2013年3月調査)。



写真手前が城南学園通り(2013.2.20 撮影)

9.天照皇大神

【所在地】早良区飯倉6丁目1-3

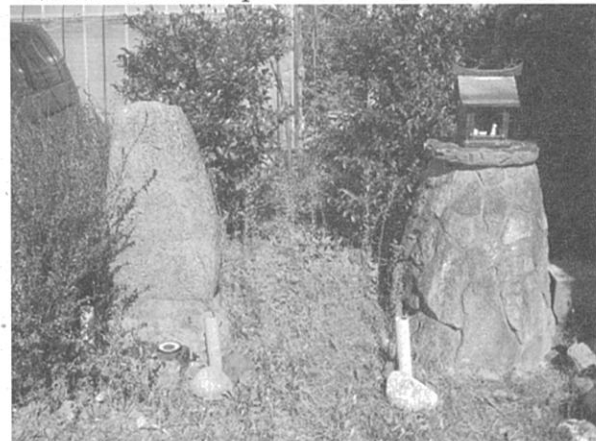
【概要】早良丘陵を南北に縦断する道路沿いに位置する。「天照皇大神 倉稻魂命 少彦名命 大己貴命 埴安命」と書かれた石造物*1とその隣に陶器製の小さな祠が祀られている。以前は、現在祀られている場所から少し南に祀られていたようであり、1986年刊行の『七隈郷土史』には、現在と違う場所に祀られている写真が掲載されている。なお、同書には、「おこもり」の記録(明治三十年のもの)が載せられており、「社日座」という名称で旧暦の二月と八月の社日に祭礼が行われていたことなどが読み取れる。

【銘文】

*1 天照皇大神

〔表〕天照皇大神 倉稻魂命 少彦名命 大己貴命 埴安命

【参考文献】七隈郷土史会編 1986『七隈郷土誌』
七隈郷土史研究会 p.33-36



写真左が*1 天照皇大神、写真右が*2の祠
(2012年10月撮影)